

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
なかま編集委員会  
〒285-0025  
佐倉市鎗木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

42年ぶりの再会-----富松 利典  
趣味を活かして十七年-----宍戸 廣美

仲間とのバイコロジー活動-----吉崎 隆  
犬嫌いの私-----青木 一義

## 『佐倉市民カレッジ』と私

野崎 恵子

「素晴らしい仲間ができた」「気持ち  
ちが若返った」と『佐倉市民カレ  
ジ』の卒業生に勧められ、三年前に  
入学しました。

2クラス編成で公民館大ホール  
での入学式。在校生に拍手で迎えら  
れ、花道を歩き何十年ぶりかの緊張  
と感動の入学式でした。

クラスでは、委員長、副委員長、  
そして班長、副班長、日直と、まる  
で昔の小学生・中学生時代を彷彿と  
させる日々の始まりでした。

カレッジのカリキュラムは、座学  
は勿論ですが、クラス全体で協力し  
なければ完遂できない、とてもうま  
くプログラムされたものでした。

大きなイベントとして、スポーツ  
フェスティバルと文化祭がありま  
す。

スポーツフェスティバルは小さ  
な運動会です。フォークダンスから

綱引き・玉入れ等そして応援合戦ま  
で、クラスの優勝を目標として、一  
丸となって取り組みますが、結果  
は、勝つても負けても「お疲れ様」  
の乾杯と笑顔で終了となります。

文化祭は、個人の作品展、研究  
発表から始まります。展示作品は、  
絵画・書道・手芸等々、多岐ですが、  
プロ級の作品展です。また研究発

表は、カレッジ生の知見の深さに、  
感心させられます。そして、文化祭  
期間には臨時の喫茶コーナーも作  
られ、カレッジ生が眼を輝かせ、接

客に勤しんでいます。メインイベン  
トが、各クラスの舞台発表です。ク  
ラスで話し合い、10分間の舞台を  
作りあげます。寸劇・歌・踊りと様々

な舞台が繰り広げられます。笑いあ  
り、感動ありの1日です。舞台発表  
後は一段とクラスの絆を強く感じ  
られます。

スポーツも文化祭も全てカレ  
ジ生の運営で、全員の協力で成功す  
る行事です。

そして修了式・卒業式の頃には、  
和気あいあいのクラスメイト達の  
笑顔がありました。

『佐倉市民カレッジ』は、様々な  
人たちの集まりですが、私にとつ  
て、人と人とのつながり、心と心の  
つながり、強い絆の友のできる貴重  
な場と時間を与えてくれるとても  
豊かな学びの場となりました。

人生100年の時代です。皆さん  
も『佐倉市民カレッジ』でもう一度、  
第二の青春に一步を踏み出してみ  
ませんか。

(編集委員)

『なかま』は来月号に  
リニューアルします

平成15年4月以来の『なかま』のデ  
ザインを来月号にリニューアルいた  
します。文字を大きくするので、投稿  
原稿の文字数が変わります(4面参  
照)。また、『なかま』の発行は来月号  
から奇数月の隔月発行となります。

## 42年ぶりの再会

歳をとると昔が懐かしくなつて、大学時代のクラブ活動仲間を集めてみようと思った。クラブの機関紙を取り出し、42年前の仲間に手紙を出してみた。結果は、

当然無残なものであった。42年間同じところに住んでいる人なんているわけない。しかし、現代では昔と違って心強い味方がいる。PC、インターネット、フェイスブックなどだ。探している人が全国放送の出版社に就職したことを覚えていたので、検索すると、彼は、趣味の園芸編集長を何年前かにしていた。別の彼は、フェイスブックで名前検索すると、軽便鉄道の模型クラブに入っていた。こうして次々に仕事や趣味やボランティアで昔の仲間を探し出し、会社やクラブや自治体などに連絡をとってみた。結果は、かなりの確率で連絡を取ることができた。

こうして私が大学1年生の時の4年生までと、私が4年生の時の1年生まで、クラブの仲間を集めてOB会を42年ぶりに開催した。OB会開催の連絡も昔は往復はがきや封書であったが、今はメールアドレスが分かれば、一斉にBCCで送信できる。

いい世の中になったものだ。せっかくなので、近況集も作ってみたが、紙で作るのではなく、仲間の力を借りて、スマホやPCで見れるようにして、近況集を印刷したい人は、各自で印刷できるようにした。

42年ぶりのOB会は大盛況で、学生時代以来ずっと会っていなかった昔好きだった人に会えた先輩もいて、開催を喜ばれた。今後も毎年幹事としてOB会開催に向けて頑張りたいと思う。

(井野 富松 利典)

## 仲間とのバイコロジ活動

進やストレス解消に役立つ等、

地球環境と人にやさしい乗り物である。自転車を安全で快適に利用できる環境づくりを進め、

佐倉の駅前で自転車の交通安全のグッズを配る初めての体験。緑のベストを着て行きかう方々に心を込めて交通安全の誓いを手渡す。グッズと言うのは

ティッシュの中に反射シールと『自転車に乗る前点検』『自転車安全利用五則』のカードが入っているもの。緑のバイコロジの旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

の旗をたなびかせる。各自それぞれ

並進禁止、夜間ライト、信号遵守

と一時停止・安全確認⑤子供はヘルメット着用。5月5日を「自転車の日」、5月を「自転車月間」と2017年に法制化された。毎年交通安全週間に5回この活動を仲間と実施する。内心はドキドキでどんな方々と遭遇するか楽しみでもあり、駅の景色がいつもと変わって見えるマインドセットチェンジでもある。

(城内町 吉崎 隆)

## 趣味を活かして十七年

私は若い頃から庭いじりが好

きで、自分の庭木はすべて自分自身で手入れをしていました。つげの玉作りや、生垣の手入れ、枯れ山水やブロック塀も見ようみまねで造って満足していました。

定年後は「植木関係」の仕事にあこがれていた。そんな時にシル

バー人材センターの「植木造園職」の募集を佐倉市の広報で知りました。一次選考の枠は1月～3月までの20人で実技講習を行いました。4月に二次選考枠の10

人に絞られました。面接試験の結果何んとか合格することが出来ました。その時は宝くじで百万円が当たったような気分でした。

4月から10月までの6か月間はより一層きびしい現場実技講習が行われました。10月には待望の「植木造園職」の認定証を取得することが出来ました。

その後指導者について各現場

にて実技を習得しました。50代で家庭園芸師と樹木医の資格を通信教育で取得していたので大変役にたちました。

花の咲く木や実をつける木、常緑や落葉樹さらに針葉樹等現場にはさまざまな樹木があり、その都度対応しなければなりません。

お客さまのお庭を手入れするときは、自分の庭のように丁寧な作業を心がけています。

夏場は暑く、冬場は手足がかじかんで暖ったまるまで2時間ぐらいかかります。でも出来栄えを見ながら自己満足をしています。太陽の下で、緑の木の下で好きな仕事をやっていると、思っている程のストレスはありません。寧ろ元気をもらっています。

先ずは足腰を鍛えて体と心を常にポジティブに維持してゆきたい。体と相談しながらポチポチと末長く…。

梅雨空の 鳩の巣をそっと

枝切らず (ミスタージョー)

(染井野 宍戸 廣美)

## 犬嫌いの私

私は犬が嫌いだ。いや犬嫌いと言った方が正しいと思う。どの位嫌いかというと、食べるとジン麻疹が出来る鶏肉より嫌いというところまでわかってもらえるとと思う。

何故嫌いになったかというところ子供の頃犬に追いかけられたり噛まれた事があり、これがトラウマとなつていいると思う。当時は犬が放し飼いになっており、野犬も多く見られた。以来私は犬を見かけると避けて近づかないようにしているが、面白いもので犬の方も私に近づくと敵対心を出して「ウーウー」とうなつてくる。

大好きの人が初対面の犬に近づき頭をなざるとじゃれついてくるのとは対照的だ。

もう一点は朝晩のウォーキング時、犬の散歩が多々見られるが同時に犬のフン害も多く見ら

れる。先日家の前の路上に大きなものがあり憤慨(糞害)した。こういったことから犬嫌いに拍車がかかった。

犬に限らずペットを飼う人は心根の優しい方だと理解できるし、犬を飼うのも自由で誰にも文句を言われない権利であるのは当然だが、権利には同時に義務もある事を忘れていいる飼い主が見られるのは残念だ。

飼い主にはぜひ私のような犬嫌いもいる事も忘れず、最低限のマナーを守って欲しいと思う。

(西志津 青木 一義)



## 12月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「趣味」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、590字程度（14字×42行）です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL: 043-485-1801 FAX: 043-485-1803

〒285-0025 佐倉市鐺木町 198-3

E-mail: chuo-public@city.sakura.lg.jp

URL: [http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0\\_1.html](http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0_1.html)

『なかま』は佐倉市民カレッジの学生と卒業生で構成される編集委員が編集を行っています。

### さくら道

久しぶりに弥富地区の里山を巡った。風もなく晩秋の野山は暖かい。空には鳶が悠々と舞っていた。一年の営みを終えた樹木は枝や葉を落とし、冬の眠りの準備をするかのようだ。畑には、えんどう豆、天豆そらまめが20センチ程の茎を伸ばし支柱に支えられている。以前、菜園を借り少しの野菜を作っていた頃を思い出す。秋蒔きで越冬する野菜はじつと冬の寒さに

耐え、春になると茎を伸ばし花を咲かせ実をつける。小さな野菜の生命力さえ感じる。冬野菜の葉ものは霜にあたり凍って、さらに甘みを増し美味しくなるという。山道を下り「七曲り」という地の由緒ある「法宣寺」ほうせんじに参拝した。山茶花さざんかが白や淡紅色の花を咲かせ、冬の暮色にうつすらと浮かんでいるかのようにだった。

(田口 貞子)

### あとがき

夢の中でベッドから落ちそうになっている。落ちた瞬間激痛が走り目が覚めた。ベッド脇のワゴンの角に右胸をぶつけたようだ。

暫くすると痛みが少し和らいできたので、急いで整形外科に行った。レントゲン写真を見て先生の診断は「肋骨が一本折れている。完治までに3ヶ月、その間重いものを持たない、上半身の運動は厳禁」と言うも

のだった。胸にコルセットを巻き、痛み止めの薬を処方され帰宅した。スポーツクラブでは、ヨガ・ピラテス等のプログラムを避け、3ヶ月間マシンのペダルを漕ぐ・歩く等有酸素運動に終始したが、良い事も有り、僅かだが体重が減ったのだ。骨折は今年最悪の出来事でした。来年は健康で怪我のない日々で有りたいと思う。

(古橋 富夫)